

## 議会と市民との意見交換会

日 時：令和4年6月28日（火）午後1時40分～午後3時29分

場 所：庁舎5階 第1委員会室

出席者：岸本委員長、長谷川副委員長、井上委員、桑村委員、石井委員、大畑委員  
古跡委員、別府委員、小川議長

（ふりかけ）代表：松本邦夫、樋口峰子、田中美恵子、尾城修司、飯井安子、井上義則

○岸本委員長（開会あいさつ）

○松本代表（別紙「ふりかけ」から議会への意見書により、説明）

生活支援サービスグループ「ふりかけ」は2021年8月より活動を始めたが、当初よりこのような活動は、行政が主体となってやるべき活動ではないかと考えている。

活動に当たっては、神戸陸運局に「ふりかけ」の活動が道路運送法上の許可、登録不要の活動であることを確認している。

私たちの将来を考えると、「ふりかけ」のような支援活動が必要ではないかと思い、行政を動かすためにもまず自分たちで活動グループを立ち上げて実行していくという思いで活動を始めている。

当初、何の予算も資源もないところから始めたので、送迎用の自動車は個人の自家用車であり、万一事故が発生した場合は自身の任意保険を使うしかなく、金銭面でも精神的な面でも活動している個人への負担は非常に大きいものである。

そのため、そこまでして「ふりかけ」の活動に参加しようとする人は、多くはない状況で、実際参加しようとした方で、こういう理由で最終的には参加されなかった方もいる。当初よりは参加ボランティアの金銭的、精神的な負担は軽減されているが、自家用車を使っている以上、まだまだ不安がある状況である。

以上のような状況を踏まえて問題点をまとめたので、加東市議会として行政上の改善点などについて、前向きに検討願いたい。

まず、ボランティア運転手が少ない。

自主運行バスの運転手と福祉有償運送の運転手と、運転手の奪い合いになってはいけない。乗合タクシーも1日に何便か動いているが、自主運行バス同様、カラ運転をしてるようでは、運転手の無駄遣い。我々の活動ではカラ運転はない。必ず利用者さんをお乗せしている。運転ボランティアを集約し、各活動に参加できるシステム、例えば「運転ボランティア人材バンク」を構築する必要があるのではないか。

次に、介護ファミリーサポーターの活動内容の改善と統合。

加東市社会福祉協議会が運営する「介護ファミリーサポートセンター」は平成24年から活動しており、10年になる。その間、どんなに活動内容の改善提案をしても何も変わらず、今日に至る。利用者の要望に応じて改善すべき点が、いろいろとある。介護ファミサポも、自動車ボランティア保険を適用して利用者を車に乗せて活動できるようにすれば、高齢者の要望に応えられて利用者も大きく増えると思う。

次に、福祉有償運送の必要性。

加東市社会福祉協議会が福祉有償運送を準備している。ただこの活動の対象者は、介護保険の「要介護3以上」の方の送迎支援に限られている。私は「要介護3以上」の方よりも、「要支援者」を対象にした支援活動を優先すべきと思う。福祉有償運送に一生懸命になる前に、「ふりかけ」のような活動を市がサポートして、いろいろな活動が広がるような流れを作っていってほしい。

次に、「ふまねっと」活動への送迎支援の拡大。

今年度から我々も送迎を受託しているが、「ふまねっと」活動は市が運営する、要支援者を対象にしたフレイル予防の活動だが、その活動に参加するための送迎支援を我々が行っている。この支援活動は、訪問型サービスDという介護事業のカテゴリーであり、市町村ごとに、この活動内容に工夫を凝らすことになっている。加東市は現時点ではこの「ふまねっと」活動の送迎にしか訪問型サービスDを適用していない。要支援者への生活支援活動に、訪問型サービスDを適用し、拡大していけば、要支援者への支援に繋がるのではないかと思う。

次に、子ども食堂との連携。

加東市では毎週土曜日の夕方に、「ペイフォワード」というNPO法人が、社福祉センターで子ども食堂を運営している。

親御さんが車で子供を連れてきて、また迎えに来るという送迎方式で、親御さんの都合で連れて来られない人もいると聞いている。「ふりかけ」の有償ボランティア活動は、経済的に使いにくい人もいると思われるが、このような場合に市から送迎に対する支援があれば、子ども食堂にもっと多くの子供たちが来られるようになると思う。

最後に、加東市社会福祉協議会にはボランティアセンターという組織がある。

これをもっと活性化させ、加東市内のボランティアを結集して、生活に困っている市民に援助の手を差し伸べる必要がある。

「ふりかけ」もボランティアセンターの1グループとして登録しているが、もっと多くのボ

ランティアグループを結集することにより、ボランティアセンター自体に有機的な繋がりが生まれて、新たな活動に繋がるものとする。たとえば議員全員が個人ボランティアに登録するとか、市役所の職員全員が個人ボランティアに登録するなどはどうか。

○井上委員

「ふまねっと」の送迎費用の受益者負担は。

○松本代表

昨年度までは別の団体が全部担当されていた。ガソリン代のレベルで徴収することの許可を市が出していた。1回片道200円、往復400円のガソリン代を利用者が負担することになっている。

○桑村委員

利用会員はどのような方か。障害者か、生活保護を受けている方か、要介護3とかの方か、どのような生活支援が必要な方が利用されているのか。

○松本代表

活動の約半分が、医療支援、要介護、障害者、生活に困っているということがはっきりとわかるような方。病院や買い物の付き添いや手伝い。

精神的障害の方もいる。運転手もそれなりに配慮ができる人が運転しないといけないし、次々と運転手が変わると不安を与えるため、気を遣わないといけない方もおられる。

○桑村委員

行政に願う具体的なことは。

○松本代表

自家用車を使わないでいいようにしてほしい。専用の車を用意するか、市の車を使えるなど。加東市社会福祉協議会の東条と社と滝野、3支部にそういう車を備え付けてほしい。活動がフレキシブルにできるように、金銭的な支援もしてほしい。運転手対策で自主運行バスは、1回3,000円支給する運転契約がされていると聞いている。

○桑村委員

加東市社会福祉協議会に対する要望は。

○松本代表

要望したいことは山ほどある。「社協だより」にボランティアグループの紹介の掲載、ボランティアを募集したいので、載せてほしいといっても、今日まで何にも動いてくれない。

○桑村委員

西脇市の「むすぶん」も小野市の「おのりんカー」も「ふりかけ」も市内限定か。

○松本代表

利用できるのは加東市民と市内在住の方に限定している。ただし加東市民の方で「西脇病院に行きたい」、「北播磨医療センターに行きたい」という、特に病院に限っては、一定の範囲まで送迎している。一番遠いところでは神戸市の神戸大病院まで送迎したことがある。

○長谷川副委員長

料金の詳細はどのように決めているのか。

○松本代表

我々の活動は全部自家用車でやっている。スタート地点はボランティアの自宅から。我々の場合は生活支援料金として、ボランティアが来てくれる時間、そして支援が終わって自宅に帰ってくる時間。これをトータルして、30分400円、1時間800円の利用料金をいただく形にしている。

○井上氏

必要なニーズの全ての網の目を埋めていこうと思うならば支援のシステムがいる。

一つは、送迎の際に自家用車を使うことはできるだけないように考えてもらいたい。もう一つは、運転手の立場になった時に、個人の時間をボランティアのために、犠牲にされていることも考えないといけない。

利用者の方がどのような形で利用されているかという、全部松本代表が依頼の電話を受け、代表が運転手ボランティアにメールやラインで段取りし、段取りの苦勞を代表が一手に引き受けて、システムが回っているという現状である。

○樋口氏

特に助成を検討してもらいたい。

乗合バスは東条では走っていない。今は運転できているが、いずれは運転できなくなる。そのときに、東条の方は家に救急車もすぐに来ない。そのような時の事を行政はどのように受けとめているのか。

○桑村委員

社市街地だけでなく、加東市全体を乗合タクシーにするべきと考えている。そうすると買い物に行く方もそこに行ける。介助が必要な方は介護サポーターや「ふりかけ」さん等をお願いしてという形が本当にいい方向だと思うが、今は社市街地しか乗合タクシーは運行していない。滝野も走ってほしい。いろいろ要望しているので、もう少し時間をもらいたい。買い物や通院など不自由にされている方が多い。できるだけバスを待つ時間も少なくして、加東市全体を循環していく必要がある。身体障害の方は、予約制デマンドタクシーを頼める形にするべきだ。それは公共交通の交通網計画にも入っていて、今検討するとなっているが、検討が長過ぎると、行政にもっと早くしてほしいと要望している。市は小学校区単位で公共交通を整理する予定で、市民の皆さんからも意見を申し出ていただいて、また議員も動いてという形が、早くなる方式だ。

○田中氏

今、外国人が増えている。世代がだんだん変わってきて、独身だった方が結婚したり、自国から家族を呼び寄せたりしている。妊婦さんや若い人たちにバスを利用してもらうよう進めていこうという話もある。加東市には産婦人科がないのが一番今ネックである。ボランティアが他市の産婦人科などに連れて行っているが、今後考えてもらいたい。

○飯井氏

社地域内では乗合タクシーが出ている。それはどのような経緯で決定したのか。

これから高齢化になり、本当に運転が困難になって免許証を返納する方が増える。その方に対しては、タクシー券があるがすぐになくなってしまう。金額変更は考えていないのか。

○小川議長

社地域内を循環してるバスを導入したきっかけは、市内を循環するのに利用して欲しいということが一つと、市内の色々な施設を巡回するバスとして乗ってもらって、市内を回って欲しいということ。その一つは自主運行バスで、各地域から来られた方が市内を移動するのに使って欲しいということで、市が始めたことである。それと福祉タクシーは自動車免許を返納された方に対しては、福祉タクシー券を交付させてもらっているが、これも議会の方でも、使い勝手をよくしてほしいとか、もっと金額を増やすべきではという要望や指摘もしているが、今のところ、金額を上げるような方針ではない。

もう1点、鴨川地区の方が自主運行バスを運営し、鴨川の方から社地域内に来てもらっている。「ふくふくバス」が福田地区からも来ている。東条西地区からは「あいあいバス」、米田地区は「米田ふれあい号」がある。この4路線が各地区で運転手を募って、ボランティア

で1回に3,000円の有償ではあるが、市のバスを使って交通空白地から自主運行バスという形で運営している。

○飯井氏

地域がそのような要求をされて、運行することになったのか。

○小川議長

市から交通空白地に自主運行バスを導入できないかということで、ずっと各地区には小学校区単位で説明会などを実施している。その内、地域でやろうかということで始まったのが今の4路線である。東条東地区でもそういう話であったが、運転手不足の問題で進められないという結論が出たようである。これからも滝野地域や各地域に出向いて説明をするとのこと。デマンド型タクシーなどの検討はするが、市の方針としては自主運行バスを主体にやるという考え方である。それを主体に今から各地域と協議をしていくということである。

○飯井氏

今後、地域での要求をもとに運行されて、それが広まって大きくなっていくと思うが、私達「ふりかけ」の場合は、生活支援を行っている。高齢者、身体障害者、子供であろうと生活に困っている状態であれば支援しましょうということから始まったものである。こういう団体を作ったという点は評価してもらいたい。

○小川議長

今回の意見交換会は、議会報告会で松本代表さんから「ふりかけ」の活動に関してのお話が発端となり、活動内容を一度、議会の方で御説明願えませんかというのがきっかけとなった。活動の中には運転手や車両、活動資金の確保などいろいろな課題がある。こういった活動には、個人的にも非常に評価させていただいている。

○飯井氏

今日の懇談は、私たちにとっても、第一歩の前進でもある。

「ふりかけ」も生活の支援では、皆さんの要求に応じて考え、実現していつている。これからも前向きに頑張るので、市の方も評価していただき、広く大きくしていつてほしい。

○古跡委員

素晴らしい活動をされている。行政の考え方では、地域の自主運行バスが一つの主体になってしまっている。しかし後5年もすれば運転手がいなくなると考える。住民の交通手段をど

う確保するのか、市が全体として考えていかななくてはならない問題だ。

○石井委員

去年から活動を始められ、その決算書・活動報告を確認した。1年間でこれだけのことをされているのはすごい。しかし加東市民でまだ「ふりかけ」の名前を知っている人は少ない。今後も「ふりかけ」のよさをPRして、利用者が楽しく過ごせる活動を行っていただきたい。

○別府委員

私も介護ファミリーサポートに登録をしているが、もう少し介護ファミリーサポートの活動の範囲が改善されればと思う。そうすることで助かる方が増える。「ふりかけ」の活動はとても素晴らしい。専門的な知識や介助やお手伝いをする上での訓練の必要はないのか、非常に不安を感じたが、令和4年度の活動に、利用者さんへの身体介助に関する講習会を計画されているので、その不安が取り除ける。まずは活動を知っていただくことが必要だ。

○大畑委員

本当に素晴らしい活動だ。私も自主運行バスドライバーをやっているが、きめ細かいところまではできない。そういうところを「ふりかけ」の方が補っていただいて、ありがたく感じた。色々な交通手段があるがうまく組み合わせて、そしてどうしてもできない部分は、市がサポートをしながら、「ふりかけ」の活動にも助けていただく形が、その地域の人たちが、何不自由なく生活できるのではないか。皆が一緒になって利用しやすい公共交通になるように活動することを心がけていく必要がある。

○岸本委員長

これで意見交換会を終了する。

○長谷川副委員長（閉会あいさつ）